

Hem21

NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

CONTENTS

- 1 21世紀文明シンポジウム「これからの『新しい公』を考える」を開催
- 2 こころのケアシンポジウム「児童虐待の早期発見と介入」を開催
- 3 こころのケアセンター研究員紹介
- 4 機構外部評価結果の概要
- 5-7 人と防災未来センターニュースMIRAI
- 8 情報ひろば

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **25** 平成23年 1月
(2011)

管理部

研究調査本部

人と防災未来センター

こころのケアセンター

学術交流センター

21世紀文明シンポジウム 「これからの『新しい公』を考える」を開催

21世紀の諸課題について幅広い観点で議論を深める21世紀文明シンポジウムを12月7日に兵庫県民会館で開催しました。

「これからの『新しい公』を考える」をテーマに約250人が参加。少子高齢化が進み、誰もが将来の生活設計に不安を感じている中で、コミュニティレベルの「共助のケアシステム」に焦点を当て、それを構築するための方策や持続的な社会システムにするための新しい社会保障制度などについて議論を深めました。

冒頭、主催者を代表し貝原理事長から、長寿国活性化方策は、昨年度の総論に続いて今年は各論研究に入り、その背景となる共助のシステム構築のため本日のシンポジウムを開催した旨、趣旨説明がありました。続いて、パネルディスカッションのコーディネーターを務める野々山久也研究統括より、「超高齢化社会をむしろチャンスと捉え日本を活性化するプログラムを創りたい」との発言がありました。

基調講演は、大阪大学総長の鷲田清一氏による「自立の意味-支えあいのネットワーク」で、「介護など高齢者に関わる事柄が問題と捉えられるのは、家族にだけ負担がかかり、地域での助け合いがなくなったからである。自立とは非依存 (in-dependent) ではなく相互依存 (inter-dependent) である。主客二様論に立って、市民はソーシャル・サービスの消費者として政治や行政に委ねるだけでなく、リーダーシップとフォロワーシップを入れ替えながら相互依存する、この仕組みが新しい公につながる」とのお話がありました。

後半のパネルディスカッションで、権丈善一氏は、日本は各国に比べて税金、社会保障費が低い。莫大な借金を抱える中、高負担なら中福祉、中負担なら低福祉しか選択肢がないのが現状。高齢化、少子化の中で公的支援の維持には増税も必要であり、責任ある市民が育った中で公が「新しい公」の姿ではとの趣旨でお話がありました。中村順子氏からは、共助のケアシステムの構築に向けた震災後のNPOによるインフォーマル・サービスや指定管理者制度、生きがいサポートセンター等の活動紹介がありました。また、当機構の研究統括でもある林敏彦氏からは、中福祉・中負担の社会等安心強化の3原



基調講演 鷲田清一 大阪大学総長

則を推進するにあたって、定年制の廃止、年金受給開始年齢のスライド、共済型社会保険機構の設置といった3つの問題提起がありました。

コーディネーターの野々山久也氏から、「高福祉、高負担するにあたって何に使われるのかを政治が示さなければならない」との発言があった後、貝原理事長から「日本の経済成長率を他のOECD国並に上げるには、社会福祉産業による内需の拡大といった国民の幸せにつながる成長が望まれる。社会保障制度に関しても、国民は単なるサービスの消費者ではなく、積極的に参加する意識を持つことが大切で、NPOのように人間らしく生きがいのある活動、そこに新しい公が芽生えるのではないかと。当機構としても新しい公や長寿社会のあり方について引き続き研究を進めていきたい」との閉会のあいさつがありました。

※当日の内容については、報告書を作成予定です。ご希望の方は電話またはFAX等で学術交流センターあてにお申し込みください。無料。



パネルディスカッションの様子

基調講演者

鷲田 清一 (大阪大学総長)

コーディネーター

野々山久也 (甲南大学文学部教授、(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構研究統括)

パネリスト

権丈 善一 (慶應義塾大学商学部教授)

中村 順子 (NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸理事長)

林 敏彦 (同志社大学政策学部教授、(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構研究統括)

こころのケアシンポジウム「児童虐待の早期発見と介入」を開催

兵庫県こころのケアセンターの日頃の研究成果の紹介と、児童虐待を取り巻く環境と虐待防止への課題とその取り組みを考えるシンポジウムを、11月25日に同センターで開催しました。センター開設以来毎年実施しているもので、7回目になります。研究報告とパネルディスカッションに、自治体職員や保健・福祉関係業務従事者、学校関係者など約210人が参加しました。

開会にあたり、当機構の内田貞雄副理事長が「内外の災害への支援活動を通じて得たものを研究に生かし、このシンポジウムを通して研究の成果を発表するとともに、今日的な課題の問題提起をしていきたい」と述べました。また、久保修一兵庫県健康福祉部長は「こどもの見守りは行政だけでは限界があり、地域住民、市町、学校関係者などとの連携を密にしていく必要がある」と訴えました。

前半の研究報告では、主任研究員4人が研究内容について報告を行いました。

はじめに、藤井千太主任研究員から「兵庫県監察医務室で行った自死遺族支援の試み」について報告があり、全体的には時間とともに一般的な不安や抑うつ症状は減少しているが、PTSD症状についてはそのような傾向を認めず、8カ月後の時点でも約6割がPTSDのハイリスクケースであった、自死は外傷度の高い出来事であり、その心理的支援については長期的な視点が必要といった報告がされました。

次に宮井宏之主任研究員から「遺族の心理的影響の評価に関する研究」について報告があり、震災により家族を失った遺族について、15年という年月を経てもなお心身の影響が存在し、およそ半数にPTSD症状やうつ症状、悲嘆反応、生活の質(QOL)の低下を認めたことから、遺族には長期的視点からのケアの提供が必要との報告がありました。

続いて明石加代主任研究員から「災害後の『こころのケア』の望ましいあり方とは」について報告があり、災害とは個人や社会の対処能力を超えた不可抗力的な出来事や状況であり、一時的に個人や社会の機能の崩壊状態をもたらすものであることから、外部からの支援の手は必要であるが、実際に「何を、どこまで、どのように手伝うか？」という問題があり、「その人なりの対処の仕方」を支援する必要があることが報告されました。

最後に、高田紗英子主任研究員から「DV被害における県内成人女子の意識および実態調査」について報告



開会あいさつ

があり、潜在的なものを含めると、DV被害者の数はかなり多いであろうということ、また、DV被害は精神的健康に強く影響を与えるということ、さらに、DVの認知度は高い一方で、被害に遭っても助けを求めない人も多いという調査結果から、より正確に、DVとは何か、どこがどのような支援を提供できるのかを啓発する必要があることが報告されました。

後半は、加藤寛当センター副センター長をコーディネーターに、「児童虐待の早期発見と介入」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

西澤哲氏は、こども家庭センター(児童相談所)への通報件数が急増し、対応可能事例数を超えているため児童相談所が機能破綻を起こしていること、日本は欧米に比べ性的虐待の構成比が極端に低く今後爆発的に増加するのではないかと、先進国最低水準の乳児死亡率、先進国最高水準の幼児死亡率であり、幼児の死亡原因の中に事故とされた虐待死が隠れているのではないかとといった指摘がなされました。

立木茂雄氏は、兵庫県で発生した虐待死事例の検証結果を紹介し、関係機関の情報の共有化が重要であること、児童相談の現場が多忙でスタッフの研修が十分に行われていないこと、子と母親だけの環境ではストレス反応や問題行動が表れるが、そこに夫や友人などの第3者が存在すると肯定的な対処反応が見られることなどが紹介されました。

側垣一也氏は、実際に児童養護施設や保育所を運営している立場から、虐待を受けた子どもに見られる特徴の紹介や、現場での実際の取り組みとして子どもの権利擁護の取り組みが紹介されました。

最後に、今は核家族ではなく家族が個人化した「ニュートリノ家族化」している時代であり、子どもは社会の預かりものとして、もっとたくさんの人が地域の子どものことを責任を持って担っていかねばならないと提言しました。



パネルディスカッション

コーディネーター

加藤 寛 (兵庫県こころのケアセンター副センター長)

パネリスト

西澤 哲 (山梨県立大学人間福祉学部教授)

立木 茂雄 (同志社大学社会学部教授、人と防災未来センター上級研究員)

側垣 一也 (社会福祉法人三光事業団総合施設長)

自殺予防対策に関わって

主任研究員 大岡由佳



私は、今春4月にこころのケアセンターの研究員として着任しました。これまでは、大学病院の精神科ソーシャルワーカーとして臨床・研究に携わってきました。病院精神科外来で虐待や犯罪、災害に巻き込まれPTSDに罹患した患者様へのソーシャルワーク業務を行う傍ら、地域の小学校や職場で死亡事故や火災が発生した際に、大学病院精神科のこころのケアチームとして精神科医や臨床心理士と共に現地支援をしてきました。また大学院において、心理社会的な視点からトラウマ(心的外傷)のさまざまな事象についても学びを深めてきました。

現在は、今まで積み重ねてきた経験を教育現場で生かしつつ、こころのケアセンターにおいて研究を中心に関わらせていただいています。週に1回は、事件、事故、災害等の相談にも対応させていただいています。また、少しでもお役に立てることができたらという思いから、微力ながら民間の被害者支援団体の活動も行っています。

研究テーマについては、現在、自殺予防対策について関わらせていただいています。いまや、全国の自殺者数は、平成10年から急増し、毎年、3万人を超える状況が続いています。兵庫県内においても年間約1,300人もの

人が自殺によって不幸にも命を失っております。そして現在、兵庫県では平成28年度までに県内の自殺死亡者を1,000人以下に減少させることを目標にさまざまな取り組みを始めています。当センターにおいても今年度から本格的に自殺予防対策研究を進めることになりました。今まで当センター研究部門においては、自殺関連では諸先輩方によって自死遺族の研究等が進められてきた経緯がありますので、それらの知見を参考に進めさせていただいているところです。具体的には、実際に自殺未遂をしてしまった方にインタビューを行わせていただき、今後のサポート体制を検討していく介入研究を進めています。なおその研究は、現在、兵庫県災害医療センターの多大なる協力を得て行わせていただいております。

研究員としてはまだまだ駆け出しで、どのように心のケアの視点を踏まえた自殺予防対策を進めていくべきかについて試行錯誤の毎日ですが、今年度末には兵庫県のち対策室と兵庫県立精神保健福祉センターと共に“自殺予防に向けての提言”として報告書を完成させる予定です。よろしくご指導ご鞭撻いただきますようお願い申し上げます。

HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

特別展「森村泰昌 なにものかへのレイクイエム―戦場の頂上の芸術」

美術史上の名画や映画女優に自ら扮するセルフ・ポートレイトの写真作品で知られる美術家、森村泰昌(1951-)。20世紀の歴史と男たちをテーマとする話題の新作シリーズ(なにものかへのレイクイエム)を完全版で紹介。地元関西では、今回が初の展示となります。



(海の幸・戦場の頂上の旗)2010年 映像

- 会期=4月10日(日)まで
- 観覧料=一般1,200(1,000)円、大学生900(700)円、高校生・65歳以上600(500)円、中学生以下無料
- ※()は20人以上の団体割引料金
- ※障害のある方とその介護の方1名は各当日料金の半額

- ◎休館日=月曜(祝日の場合は翌日)
- ◎開館時間=10時~18時(特別展開催中の金曜・土曜は20時まで)
- ※入場は閉館の30分前まで
- TEL 078-262-0901 <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

JICA兵庫

- ◆ 国際協力入門セミナー「中米BOSAIプロジェクト」
兵庫県がJICAと共同で設置した「国際防災研修センター(DRLC)」で研修を受けた開発途上国の研修員や、防災分野で活躍する兵庫県出身の青年海外協力隊員が、防災への想いや現地での活動について紹介します。
● 日時=2月6日(日)13時30分から15時まで
● 会場=JICA兵庫2階ブリーフィング室
● ※事前申し込み必要
● 申し込み先=(公財)兵庫県国際交流協会(HIA)協力課
● TEL 078-230-3263 Eメール icd@net.hyogo-ip.or.jp

- ◆ ロビーコンサート
ネパール民族音楽とナマステ体操をお届けします。
● 日時=2月6日(日)11時から12時30分まで

◆第16回JICA兵庫映画鑑賞会

『Garment Girls バングラデシュの衣料工場働く若い女工たち』(原題:Garment Girls of Bangladesh) ※監督:タンヴィール=モカメル、日本語字幕、64分、バングラデシュ映画協会連盟ドキュメンタリー部門最高賞受賞(2007年)

- 日時=2月20日(日)15時から17時まで
- ※事前申し込み必要

◎申し込み・問い合わせ

JICA兵庫 JICAプラザ兵庫担当
TEL 078-261-0341(代表) FAX 078-261-0342
Eメール jicahic-event@jica.go.jp
※各イベント情報は決定次第、ホームページやイベントカレンダーにてお知らせしますので、ぜひご確認ください。
<http://www.jica.go.jp/hyogo/index.html>

WHO神戸センター(WKC)

- ◆ WKCフォーラム「こころの健康～都市化と社会格差の影響」
社会格差とこころの健康をテーマに、日本と海外の現状と取り組みについての紹介、さらに都市部での健康格差に関する関連データの発表を通じ、社会格差が健康リスクのひとつであることへの理解を深める場といたします。
● 日時=3月4日(金)14時から16時まで
● 場所=国際健康開発(IHD)センタービル3階 交流ホール
● 基調講演:「社会格差とこころの健康:日本の現状とこれからのアクション」川上憲人氏(東京大学大学院医学系研究科 教授)
● ※フォーラム参加には事前申し込みが必要です。詳細はWKCホームページ(<http://www.who.or.jp/index.html>)をご覧ください。

◎申し込み・問い合わせ

WHO 神戸センター協力委員会
〒650-8567
神戸市中央区下山手通5丁目10-1 (兵庫県健康福祉部健康局医務課内)
TEL 078-360-2220 FAX 078-366-2012
Eメール wkckyo@abeam.ocn.ne.jp

→次頁へ続く

機構外部評価結果の概要

当機構では、財団の設立目的に沿って、研究調査や各種事業に効果的かつ効率的に取り組み、社会的責任を果たすべく、平成22年度の外部評価を実施しました。

今年度の外部評価では、「第1期中期目標・中期計画」の最終年度である平成21年度に取り組んだ事務・事業について、機構内部で自己点検評価を行い、その結果を外部評価委員会に付し、評価項目ごとに厳正な評価を頂いたところです。報告書の概要は以下のとおりですが、報告書の全文は、当機構のホームページに掲載しています。

機構全体の評価

『人と防災未来センター』および『こころのケアセンター』の運営も含め、阪神・淡路大震災という歴史的経験とそこから得られた教訓をもとに「第1期中期目標・中期計画」に沿って従来概ね所定の成果をあげ、今後の活動が期待される組織である」との評価を頂きました。

併せて次の項目などについて、貴重なご意見をいただきました。

政策提言力の向上

- 県政との連携強化について
- 政策研究の充実について
- 特色ある研究について

大学等との連携強化と効果的な情報発信

- 大学・研究機関との連携等による活性化について
- 対象を明確にした研究・事業の設定について
- ホームページの充実について

自己点検評価・外部評価の見直し

- 研究調査の評価基準の検討について
- 評価方法の検討と評価結果の今後への反映について

継続的な見直し

- 効率的運営のための事務事業の見直しについて

研究調査の評価

平成21年度に完了した13テーマの研究調査については、1テーマに1人の学識経験者を専門委員として委嘱し、査読を行い、評価していただいたところ、次の項目に関して共通した指摘をいただきました。



- 研究調査の進め方・議論の展開に関する指摘
- 調査方法に関する指摘
- 報告書の体裁に関する指摘
- 提言に関する指摘

外部評価委員名簿

委員長

新野幸次郎(財団法人神戸都市問題研究所理事長)

委員

- 足立 幸男(関西大学政策創造学部教授)
- 渥美 公秀(大阪大学大学院人間科学研究科教授)
- 岡本 久之(兵庫県立大学副学長)
- 木村 陽子(財団法人自治体国際化協会理事長)
- 佐藤友美子(サントリー文化財団上席研究フェロー)
- 瀧川 博司(兵庫県商工会議所連合会特別顧問)
- 泊 次郎
(東京大学地震研究所研究生(元 朝日新聞社編集委員))

HAT神戸 掲示板

→前頁からの続き

日本赤十字社兵庫県支部

ひょうご安全の日推進事業

「災害対応力を身につけよう!」(防災イベント)

日本赤十字社兵庫県支部では、「ひょうご安全の日」の趣旨を踏まえ、防災、減災に寄与する一環として、地域赤十字奉仕団、赤十字防災ボランティアの皆さんとともに総合防災訓練を開催します。また、ご来場者の皆さんに参加していただける防災イベントも併せて開催いたしますので、県民の方々のご参加をお待ちしています。

■日時=2月11日(金・祝) 10時から14時まで(荒天中止)

■場所=伊丹市立伊丹小学校グラウンド(伊丹市船原1-1-1) (阪急伊丹駅から徒歩約5分)

※駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用願います。

■内容

防災訓練(午前)

• 赤十字防災ボランティア等によるボランティアセンターの運営および救護所の設営

防災イベント(午後) <参加費無料>

• 非常食とみそ汁の無料配布(1,000食)

• AEDを使った心肺蘇生法や三角巾によるぎざの手当などの救急法ミニ講習や災害時の高齢者支援など、災害時や日常に役立つ知識・技術を紹介する体験コーナー

• 赤十字病院の看護師による健康相談コーナー

• 配布期限の迫った救援物資の無料配布(1,000個)他

●問い合わせ

日本赤十字社兵庫県支部 事業部 奉仕課

TEL 078-241-9889(代表) FAX 078-241-6990

http://www.hyogo.jrc.or.jp/



TOPICS

●河田センター長が兵庫県社会賞を受賞

兵庫県が、明るい地域社会づくりに貢献した者の功績を讃える平成22年度兵庫県社会賞を河田センター長が受賞し、11月10日に贈呈式が県公館で行われました。

永年にわたり防災・減災対策の調査研究に取り組み、わが国の防災体制の構築に貢献するとともに、大震災の経験と教訓を生かし国内外の被災地での支援活動や災害対策専門職員の育成に努めるなど、減災社会の実現に向けた取り組みが評価されました。



贈呈式の様子

●ブディオノ・インドネシア副大統領が人と防災センターを視察

11月16日、APEC横浜会議出席のため来日していたブディオノ・インドネシア副大統領が、5人の閣僚を含む約110人のインドネシア政府高官と共に、人と防災未来センターを視察されました。

吉本副知事と河田センター長が同副大統領を出迎え、橋本副センター長の説明で館内を視察いただきましたが、さらに、当センターが事務局を務める国際防災・人道支援協議会のメンバーであるアジア防災センターとJICA兵庫事務所の両センター長も加え、インドネシア側と意見交換を行いました。

今回の視察は、阪神・淡路大震災の経験から学びたいとの副大統領の強いご希望で実現したもので、当センターを視察するためだけに来県されたもの。「インドネシアは、日本の防災の経験から学ぶことができると考えている。減災分野での両国間の交流をさらに強化したい」と感想を述べられました。



熱心に展示をご覧になるブディオノ・インドネシア副大統領



センター前での記念撮影

TOPICS

●中米地域特設研修「中米防災対策」コースを実施

独立行政法人国際協力機構 兵庫国際センター（JICA兵庫）からの委託を受けて、中米地域6カ国13人の中央・地方自治体の防災担当行政官に対する研修を実施しました。この中米地域特設研修「中米防災対策」コースは、1997年に中米地域に甚大な被害をもたらしたハリケーンミッチからの復興支援の一環として2000年から開始され、当センターでは2002年の開設以来、継続して実施している研修です。

今回は、自然災害による人的被害を軽減するため、特に地域住民に対する災害情報の伝達に焦点を当てることによって、災害発生時に地域住民を速やかに避難させるための具体的方策を理解し、帰国後に自国の防災行政に反映することを目的としました。このため、災害種（火山、津波、土砂災害）ごとに、講義およびワークショップと、国内の被災地訪問を組み合わせて、現地視察だけでなく、被災住民との意見交換を行うなど、過去の自然災害の事例分析を通し、効果的な情報の活用方法に関する具体的なイメージを持てるようなカリキュラムとしました。

11月8日から12月10日まで、1か月間に及ぶ研修を終え、多くの研修員が「この研修で得た日本の知識・経験を自国の防災行政に直接的に活用することができる」と評価するなど、研修員にとっても充実したものとなったようです。



被災地の現地調査（有珠山地域）



被災住民との意見交換



ワークショップでの発表



センター内での講義

●企画展「今、防災情報は？ ICT・メディア・人。活かそう、豊かな情報ネットワーク」

16年前の阪神・淡路大震災以降、インターネットや携帯電話など、情報通信技術は著しく発展し、いまや私たちの日々の暮らしに欠かせないインフラとなっています。地震などの大きな災害の発生時、これら情報通信に関わるインフラが、どのような支障を来すのか、阪神・淡路大震災等の事例を基に考えます。

また、震災後発展した情報技術＝最新のメディアや端末を積極的に活用し、私たち一人一人が今どのような防災情報を入手できるのか、通信・放送事業者による防災情報の提供サービスや、災害に備える予防対策としての取り組みを紹介しています。

さらに、ユーザー参加型、双方向性、集合知的な媒体であるインターネット技術等の活用で、地域社会全体で防災・減災のための情報を収集・共有しようとする取り組みや、「ユニバーサル防災（＝誰ものための防災）」の視点から、情報授受の面で取り組まれるべき課題や事例等についても触れ、発展する技術を生かした、市民に役立つ「情報通信における防災」を考えていきます。

実施期間：平成22年12月14日（火）～平成23年4月10日（日）

実施場所：西館2階 防災未来ギャラリー（有料ゾーン）



企画展入り口



展示風景

1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」表彰式・発表会

当機構が兵庫県、毎日新聞社と共に主催し、学校や地域で取り組む防災教育・活動を顕彰する1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」の表彰式・発表会が1月9日に兵庫県公館で実施されました。今回応募のあった101件の中から、地域住民の家具固定の啓発等の取り組みでグランプリに選ばれた徳島市津田中学校をはじめ、18団体が入賞しました。

表彰式の後に、グランプリ、大賞、優秀賞の団体に加え、昨年1月の地震で被災したハイチ人留学生、10月の水害で被災した奄美大島を訪ねた兵庫県立舞子高校が、それぞれの活動を報告する発表が行われました。表彰式の司会は、はばタン賞を受賞した松蔭高等学校の平尾祥子さんと栗木美咲さんが務め、会場の大きな拍手を受けました。

また、この日は防災力強化県民運動ポスターコンクールの表彰も併せて実施され、県民会議会長賞を香川楓子さんと小島菜穂さん、人と防災未来センター長賞を荒木恵祐さんと上田紗佑里さんがそれぞれ受賞しました。入選作品は1月12日から2月27日までセンターで展示されています。



表彰式の様子（石川工業高等専門学校）



12歳教育推進事業実行委員会の発表



受賞者の記念撮影

グランプリ

- 徳島市津田中学校

ぼうさい大賞

- 12歳教育推進事業実行委員会
- 愛知県立日進高等学校
- 愛媛大学防災情報研究センター

優秀賞

- 丸亀市立城辰小学校
- 釜石市立釜石東中学校
- 兵庫県立佐用高等学校
- 石川工業高等専門学校

奨励賞

- 南原市立大野木場小学校
- 印南町立印南中学校
- 牧ノ原市立相良中学校
- 三重県立津工業高等学校
- 岩手県立宮古工業高等学校
- 阪神・淡路大震災写真調べ学習プロジェクト

だいいょうぶ賞

- 三重県立聾学校

はばタン賞

- アトリエ太陽の子
- 神戸市立科学技術高等学校
- 松蔭高等学校

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

開館時間 9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)
 ※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)
 ※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

入館料金

大人	大学生	高校生	小・中学生
600円(480円)	450円(360円)	300円(240円)	無料

※()は20人以上の団体料金
 ※障害者、65歳以上の高齢者は上記の半額

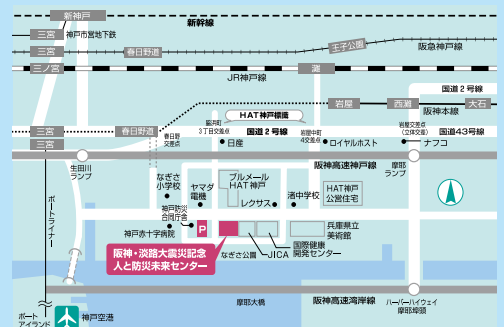
休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
 ※ゴールデンウィーク期間中(4月28日から5月5日まで)は無休
 ※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

- 鉄道**
- 阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
 - JR「灘」駅南口から徒歩12分
 - 阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分
- バス**
- 三宮駅前から約15分
- 車**
- 阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
 - 阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
 - 阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

- 有料駐車場(普通車100台)
- バス待機所(予約制/無料)あり



情報ひろば

兵庫県こころのケアセンター

平成22年度兵庫県音楽療法士認定証 交付式・記念講演会・実践活動発表会参加者募集

- ▶日時=3月24日(木)13時~16時
 - ▶場所=兵庫県こころのケアセンター
 - ▶プログラム
 - ・兵庫県音楽療法士認定証交付式
 - ・記念講演
(講演者 金城学院学院長・大学長 柏木哲夫氏)
 - ・実践活動発表会
 - ▶定員=250人(先着順)入場無料
 - ▶主催=兵庫県、(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
 - ▶申し込み開始=2月12日(土)
 - ▶申し込み方法=所定の参加申込書(※)に必要事項を記入の上、郵送、FAXまたはEメールで下記までお申し込みください。
- ※兵庫県こころのケアセンターのホームページからプリントアウトできます。

- 申し込み・問い合わせ
兵庫県こころのケアセンター事業部事業課
TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017
Eメール college2@dri.ne.jp



平成21年度認定証交付式

学術交流センター

研究情報誌「21世紀ひょうご」 第9号発行のお知らせ

現代社会の課題を的確にとらえ、専門的立場から課題を分析・紹介し、具体的な提案を行う情報誌です。B5判90ページ。

■巻頭言

21世紀型の社会保障のあり方を考える
(東京大学高齢社会総合研究機構教授 辻 哲夫)

■特集「21世紀型の社会保障のあり方」

- ・21世紀における社会保障を考える
(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構研究統括 甲南大学文学部教授 野々山久也)
- ・ベーシック・インカム の構想と社会保障
(関西大学社会学部教授 矢野秀利)
- ・財政再建下における社会保障財源
(甲南大学経済学部教授 永廣 顕)
- ・若年労働とコミュニティケア
(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構主任研究員 甲南大学文学部講師 阿部真大)
- ・介護事業の今後の展望
(社福)光明会高齢者事業本部長 高齢者総合福祉施設オリンピア兵庫館長 山口 宰)

■トピックス

- ・アジア太平洋フォーラム・淡路会議「国際シンポジウム」(記念講演)
- ・情報共有をめざして—巨大災害対策をめぐる国際協力の仕組みづくり—

((公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構主任研究員 稗原雅人)

■調査報告

- ・2010年1月ハイチ大地震災害に関する復旧・復興状況調査報告

- ▶発行=年2回
- ▶購読料=800円(送料別途)
- ※定期購読をされる場合は、年間購読料1,600円(送料込み)
- 申し込み・問い合わせ
学術交流センター
TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122
Eメール gakujuitsu@dri.ne.jp



Hem21NEWS vol.25

平成23年1月発行



(公財)ひょうご震災記念 21世紀研究機構

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
(人と防災未来センター)

<http://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部

TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究調査本部

TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター

TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

●学術交流センター

TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・
ご感想を機構までお寄せください

企画・デザイン・編集・制作・新聞印刷・商業印刷・出版印刷・新聞広告・雑誌広告・SP・イベント・IT事業



小説、自伝、詩集など
あなたがお書きになった原稿を
ご予算に応じた自費出版プランで
ご提案いたします。
また、各企業の記念誌等の
企画・プロデュースも
いたしております。
どうぞお気軽にご相談ください。

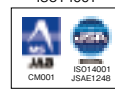
株式会社 神戸新聞総合印刷

☎078-362-7180

本社/〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-5-7
<http://www.kobepn-printing.co.jp/>

当社の印刷センターはISO14001の認証を取得しています。

ISO14001



新聞印刷及び各種商業印刷

印刷物の企画プロデュースから編集・印刷まで、ニーズに合わせてトータルに手がけます。